

## 第4回箕輪町森林ビジョン検討委員会 議事録

日 時： 令和6年2月22日（木） 14:30～16:30

場 所： 箕輪町地域交流センター 研修室 A・B

出席者：別紙のとおり（次第・出席者名簿参照）

### 1. 開会（みどりの戦略課 係長 小笠原 岳大）

お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

今回、アドバイザーである石川県立大学の丸先生は、震災の関係もあり、オンラインでの出席となる。丸先生から一言お願いしたい。

### 2. 丸アドバイザー近況報告

元旦の発災時、私自身は筑波の自宅に帰っていて無事だった。大学も無事だった。出身地の内灘町では、被災した親族もいる。

今、能登半島では、先を見据えた復興、地域づくりを考えなければならない状況にある。（二次避難している人たちのうち）高齢者は帰ってくるかもしれないが、若い世代が復興後に能登半島に住むかはわからない。箕輪町森林ビジョン検討委員会の中で、「次世代や次の世代を考えた森づくりについて検討する必要がある」という話題が出ていて、感銘を受けていたが、それに今、難解な問題として石川県が直面している状況。全く元通りに復興することは恐らくできない。次の次の世代まで見据えた、まさに（地域づくりの）ビジョンが求められる状況になっている。今日の皆様の議論を参考にさせていただきたい。

### 3. 町長挨拶（町長 白鳥 政徳）

出席いただきありがとうございます。今、丸先生から震災のお話もいただいたが、町としても少しでもお役に立ちたいということで、被災地への職員の派遣等を行っている。今日も、災害ゴミの処理等に当たっていた職員が戻ってくるので、災害で排出されたゴミのあり方や、特に住宅等の被害の状況を聞き取りたいと思っている。日曜日からは給水車の派遣（第2陣）が予定されている。同じようなことが当町で起きたらどうなるかということ、（能登半島の被災状況をもとに）考えていかなければいけない。

森林ビジョンについては、ここまで様々な検討をしていただき、ありがとうございました。これまで当町には森林ビジョンがなく、「補助金があるから」「区から申請があったから」「災害があったから」ということで事業執行するしかなかった。やむを得ない部分もあったが、これからは、森林の公益的機能をどう活かすか、伐期を迎えている人工林をどうするか等、ビジョンを持って取り組む必要があると考えている。本日は最終回だが、この委員会より前にビジョンの原案を見せてもらったが、委員の皆様のご苦勞の跡が随所に見えた。ありがとうございました。今日で成案にしていなければならないと思うが、ビジョンがビジョンで終わって

しまっではいけないので、いかに事業化していくかは町の責任であり、町民の皆様と一緒にやっていきたい。よろしくお願いします。

#### 4. 議事（進行:三木委員長）

年度末、確定申告等で忙しい中ではあるが、議事をやっていこうと思うのでよろしくお願いします。

まずは事務局からパブリックコメントの結果について報告を。

##### (1) パブリックコメントの結果について（みどりの戦略課 係長 小笠原 岳大）

2024年1月12日から2月9日までパブリックコメントの募集を実施し、意見提出が2名から3件あった。（資料に沿って説明）

資料には記載がないが、口頭で、萱野高原に関する記載を加えてほしいという意見があった。萱野高原は町の観光資源であり、三日町・福与生産森林組合の皆様をはじめ、地域の皆様が中心になって整備してきた場所で、植物園もある。これについては、「6-7 森への関わりしろ」の中に追加で記載する予定である。

委員長：何か質問は？

具体的な施設に関しては、森林ビジョン策定後の地区ビジョン作りの中でも具体的に考えていくことだと考えている。では次に進む。

##### (2) 森林ビジョン本編・解説編について（(同)ラーチアンドパイン 杉本）

###### ① 2章・3章

・別添資料（森林ビジョン解説編）により、前回からの変更点について説明。

委員長：意見等はあるでしょうか？

なければ先に進み、後から意見等をまた聞ければと思う。

###### ② 4章・5章

・別添資料（森林ビジョン解説編）により、前回からの変更点について説明。

委員長：ここまでで質問や意見は？

大丸アド：共有林だった頃からの歴史が書かれ、町の森林がどのように今に繋がるかということが書かれていて、良いと思った。そうすると、現在私有林であっても、森林には今も公益的な一面があると言えると思う。今後、森林管理を実際に行っていくときには（所有者間の）利害衝突が起きるかもしれないが、そうした場面において、「町全体の森林のために協力していただきたい」と町の職員が言いやすく

なるような一言を、何かこのビジョンの中に付け加えるというのはどうだろうか。

事務局：「2-1 「森林ビジョン」とは何か」の中では、森林管理が所有者の財産管理であるだけでなく、地域住民の生活にも関わることなのだ、という書き方はしているところだ。それ以上に踏み込んで書くかどうかは、ご意見を参考に事務局内で検討させていただきたい。

委員長：事業者数の推移については「横ばい」のままで良いと思うが？

保科アド：横ばいで良いと思う。推移のグラフを作成してみても、微増微減の範疇に収まっている。

委員長：では、特に差し障りなければ「横ばい」のままで。

他にご質問や意見は？

保科アド：「4-5 松枯れ対策」について、もう少し言葉を正確に書いた方が良いかと思う。具体的には、「松枯れが発生し」を「松枯れが増加し」に、「被害木」を「枯死木」に、「松枯れは主に」を「この松枯れは多様な原因で発生しますが、近年はマツノザイセンチュウ病による枯死が増えています。マツノザイセンチュウ病は」と直して、以降の「外来種の…」につなげる。また、マツノザイセンチュウ病で起こるマツヤニや蒸散の異常は、木が起こすアレルギー反応のようなものなので、「生理障害」と表現するのが良いだろう。更に、標高が高くても被害が発生する可能性があるのと同時に、標高が低くても枯れない木もあることも記載した方が良いだろう。

事務局：ご指摘いただいた通りに修正する。

委員長：他には？

小平委員：松枯れについてはわかったが、ナラ枯れの心配はないのだろうか？

保科アド：ナラ枯れは、カシノナガキクイムシという在来の昆虫によって起こる。普段は大人しくしているが、こうした昆虫は何か環境が変わったときに子孫を残すための活動を起こす。カシノナガキクイムシにとっては、木が太くなることで（大発生）スイッチが入ると言える。しかし、在来昆虫なので、すべての木を枯らすと自分も繁殖できなくなるので、すべての資源を枯らすことはしない。結論を言うと、発生の可能性はあり、上伊那管内でも単木では枯れている事例もある。ちなみに、ミズナラは枯れるがコナラはカシノナガキクイムシが入ってもあまり枯れないとも言われている。

委員長：森林ビジョンの中にどう書くかだが、広葉樹の多い北信地域とは違うので、箕輪町の場合は、通常の方策を取っていくということになると思うので、特に項を立てて書き込む必要はないかなと思う。またこれは（事務局内で）相談したいと思う。

他にはどうだろうか？

小平委員：「はげ山」という表現は、公的な資料の中では避けた方が気持ち良い。

「立木に乏しい」というような書き方ではどうだろうか？

委員長：研究の上でも使われてきた言葉ではあるが、たしかに避けられれば良いと思う。

行政的に言うなら無立木地（むりゅうぼくち）が良いかと思う。

岡田委員：その「はげ山」の画像があると良いと思う。木曾あたりにはそういう写真があるはず。当時の状況を視覚的に見てもらえればわかりやすいと思う。また、8ページの表現が、「戦中には軍需物資等として、戦後には復興用資材として」ということで、パブリックコメント時点の「戦中・戦後には軍需用物資として、あるいは復興用資材として」という書き方より、より踏み込んで書いていると思うが、何か意図があるか。経緯を聞きたい。

事務局：書きぶりについては、元々、林野庁の資料（平成25年度森林・林業白書）を参考に書いたもの。パブリックコメント時点の文章より言葉としてわかりやすいように書き直した。それ以上の意図は特にない。

委員長：写真については、当時は「はげ山」が「当たり前」だったので、なかなか写真に撮ろうとしていない。郷土資料館等にはあるはず。

保科アド：木曾の振興局にいたときには、GHQが撮った航空写真があった。諏訪地域には、諏訪市博物館の資料、岡谷の資料があるはず。電子データを県で持っているはず。ただ、意に沿う写真かどうかはわからない。

委員長：できれば町内の写真が良いとは思いますが。

保身アド：上伊那では探しているがあまりない。

事務局：8ページの空中写真は、小さくなってしまっているが、下古田で撮影されたもの。オープンデータから採ってきた。薄い灰色で写っているところが無立木地で、よく見ると地拵えの後も見える。

委員長：ここに書いていることに沿う、正しい写真を載せたいと思う。

小平委員：この下古田の写真は、山火事後の植栽地かもしれない。

事務局：それを載せてしまうと確かにかなり意味が違ってしまいますので、検討する。

委員長：他にはよろしいか？では次に進みます。

### ③ 6章

・別添資料（森林ビジョン解説編、本編）により、前回からの変更点について説明。

委員長：ご意見等は？

中村委員：3つの柱に「み・の・わ」と付けているが、無理につけなくても良いのでは？

また、南アルプスを擁するという記事を記載しても良いのでは。

委員長：「み・の・わ」としたのは、最初は番号で「1・2・3」としていたが、それだと優先順位に捉えられてしまうということで、このようにした経緯がある。

山岳の情報については、「3 箕輪町の森林の基礎情報」のあたりに書き込むというのもひとつの手かと思う。

小平委員：本編4ページの番号①から④と、5ページのチャートを辿った先の「4・3・2・1」はつながっているもののはずだが、この状態だとそれがわからない。言葉等での工夫が必要だ。

委員長：たしかにその必要はある。広報誌掲載時の配置も考えて工夫する。

岡田委員：「ナイス！な取組み」の中に、東側が少ない。具体的には、歴史的にも山争があった南北小河内がないのは寂しい。何かのかたちで取り上げられないか。

河手氏：毎年、日干しを兼ねて閲覧できるようにしている「宝永絵図面」がある。

委員長：歴史的には「諏訪側に山を取られてしまった」という図なのだが、古い図面を地域の中でずっと大切に守ってきて、あれだけ大きな図面は他では見られないので、そうしたものを「ナイス！な取組み」に入れるのは良いと思う。

釜屋委員：観光側の視点で言うと、萱野高原を入れていただけということだが、岡田さんも仰った通り、「ナイス！な取組み」の東側をもう少し充実させてほしいと思う。これからの観光ということを考えたとき、箕輪町の売りは、「3つのアルプスが見える町」というものだと思う。萱野高原からは3つのアルプスが同時に見える。これは貴重なことである。何かビジョンの中に入れてもらいたい。

保科アド：「ナイス！な取組み」でこれだけ盛り上がるのは素晴らしいと思う。町民と森との関わりというと、山保育などもある。そうしたものもどこかに付け加えられれば。

委員長：冒頭で町長が「今日、成案にしてほしい」と仰ったが、でもこれだけ出てくるのは素晴らしい。他にはあるか？

では、次に進む。今後、このビジョンがどのように周知されるのか等も含めて、事務局から説明をお願いしたい。

### (3) その他 (みどりの戦略課 係長 小笠原 岳大)

#### ① 令和6年度 森林ビジョンに基づく取組み等について

- ・資料に基づいて説明(24 森林ビジョンに基づく取組み、25 森林環境整備の取組み)
- ・25に関連して、相澤委員から事前に、「薪ストーブへの補助も検討してほしい」というご意見があった。来年度は計上できていないが、薪ストーブ導入補助金についても検討する予定である。
- ・記載がないが、町でもドローンを購入する予算を計上している。

#### ② ビジョンの周知について

- ・ビジョンの本編は5月号の広報誌に掲載を予定している。
- ・今日の議論を踏まえて修正後、3月議会で報告予定。

- ・委員の皆様にも修正版を郵送する。

保科アド：「ナイス！な取組み」は、すべてはビジョンに載せられないが、例えば町の広報誌に毎月載せる等して、ビジョンを実現するための行動に移してもらう方が良いと思った。

委員長：仰ったとおり、ビジョン策定時点の姿を書くだけでなく、大事なのは、ナイス！な取組みが常に実施されて更新されていくことだと思う。今後も掘り起こしをしていく上で、広報誌や、ケーブルテレビさんを通じて発信するというのは良いと思う。

また、このビジョンは広報誌に載せるだけではなく、解説編を図書館に収蔵して、将来の人が検証できるようにしてほしいと思う。

小平委員：「みどりの少年団」は、もみじ湖のあたりでも活動していた。そのことも書き込んで良いのでは。もみじを植栽した歴史がある。

### ③ その他

- ・委員会は今回が最終回だが、今後の（ビジョンの）評価ということについても、またご協力いただく場面があると思うのでお願いしたい。
- ・また、来年度の予算を使ったイベント等の取組みも、委員の皆様からもぜひお願いしたい。岡田委員や森林組合には、講師等もお願いすることになると思う。
- ・引き続き、森林ビジョン実現のためにご協力をお願いしたい。

### ④ 委員長よりひとこと

これまで長時間にわたり、ご意見をいただき、ありがとうございました。

こうしたビジョンは、コンサルタントが作った案に「そうですね」と言って決めてしまう場合が多いのだが、今回は皆さんの色々な意見を反映させたものになった。その中では、皆さんの意見を一本化できないものもあったが、議論しながらひとつのものをつくったというのは重要な経験だと思う。さすが箕輪町だと思った。

ビジョンはあくまでも計画。大切なのは、計画を実行していく、（行政の事業に）反映させていくこと。これから長い期間をかけて、見直しながら実行していくということが始まる。町が早速予算を組んだのは安心なところ。これは私も含めて、委員が中心になって、ビジョンを現実にしていこうと思っている。私は町民ではないが、実行の場面でも色々協力したいと思っているので、皆さんにもよろしくお願いしたい。

ではここで進行を事務局に戻す。皆様お疲れさまでした。

## 5. 課長挨拶（みどりの戦略課 課長 山口 弘司）

ありがとうございました。

大丸アドバイザー、保科アドバイザーの的確なアドバイス、三木先生の進行とまとめ力の素晴らしさ、ラーチアンドパインの対応の速さ、大変ありがとうございました。これが無ければ進まなかったと思う。何より、委員の皆様の活発な論議があって、このビジョンができた。感謝しかありません。ありがとうございました。

**6. 町長ひとこと(町長 白鳥 政徳)**

ありがとうございました。ビジョンは「これから」。よろしく願いいたします。

以上